

～ 規格本文 ～

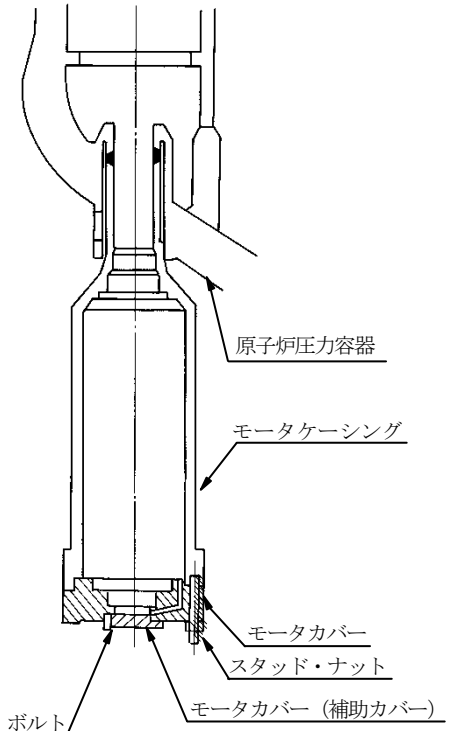
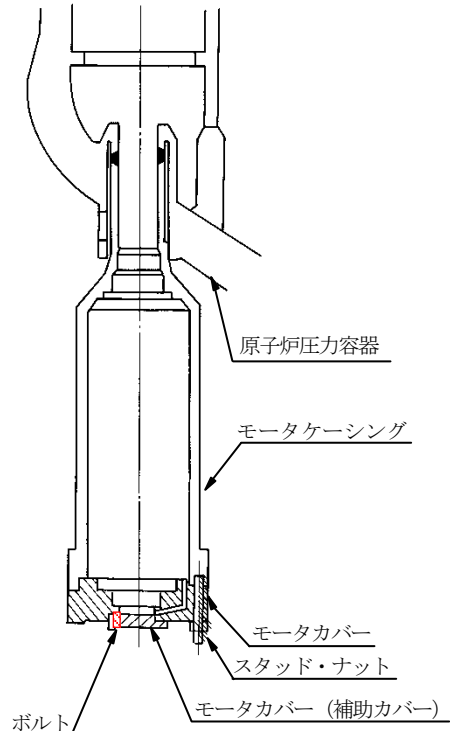
No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
第3章 非破壊試験					
1	I-3-32	GTN-7210	試験方法は、以下に定める事項を除き、日本工業規格 JIS Z 2343-1(2001)「非破壊試験－浸透探傷試験－第1部：一般通則：浸透探傷試験方法及び浸透指示模様分類」(以下 <u>JIS Z 2343</u> (2001)という)によらなければならない。	試験方法は、以下に定める事項を除き、日本工業規格 JIS Z 2343-1(2001)「非破壊試験－浸透探傷試験－第1部：一般通則：浸透探傷試験方法及び浸透指示模様分類」(以下 <u>JIS Z 2343-1</u> (2001)という)によらなければならない。	2005年版以降
第4章 容器					
1	I-4-27	PVB-3114.1	供用状態 A および供用状態 B において生ずる応力の疲労解析に用いる繰返しピーク応力強さは、添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2 における 10 回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。	供用状態 A および供用状態 B において生ずる応力の疲労解析に用いる繰返しピーク応力強さは、添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2 における 10 回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。	2009追補版以降
2	I-4-27	PVB-3114.2	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2)	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2)	2009追補版以降
3	I-4-30	PVB-3122.2 (1)	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2)	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2)	2009追補版以降

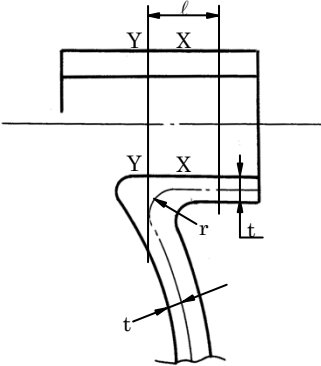
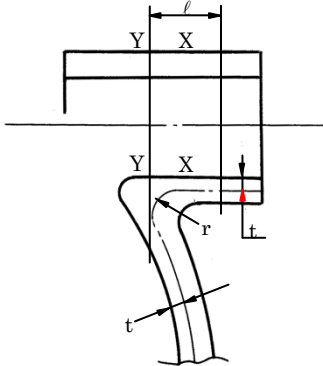
No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
4	I-4-40	PVB-3315.2	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2)	N_a : 繰返しピーク応力強さから求められる許容繰返し回数 (添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2)	2009 追補版 以降
5	I-4-135	☒ PVC-4212-3 (9/9)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)までおよび(38)については、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)までおよび(38)については、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	
6	I-4-173	☒ PVD-4112-3 (9/9)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)までについては、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)までについては、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	
7	I-4-240	☒ PVE-4214-1 (8/8)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)および(32)については、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)および(32)については、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	2005 年版以 降
第 5 章 管					
1	I-5-26	PPB-3534	添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2 を用いて、PPB-3533 に従って算出された繰返しピーク応力強さに対応する許容繰返し回数 N_f を算出する。	添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2 を用いて、PPB-3533 に従って算出された繰返しピーク応力強さに対応する許容繰返し回数 N_f を算出する。	2007 追補版 以降
2	I-5-28	PPB-3536 (4)	供用状態 A および B における PPB-3533 の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとした値は、添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2 における 10 回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。	供用状態 A および B における PPB-3533 の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとした値は、添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2 における 10 回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。	2007 追補版 以降

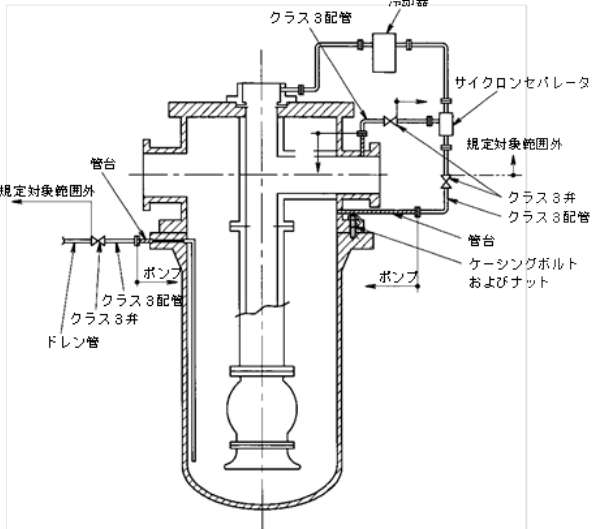
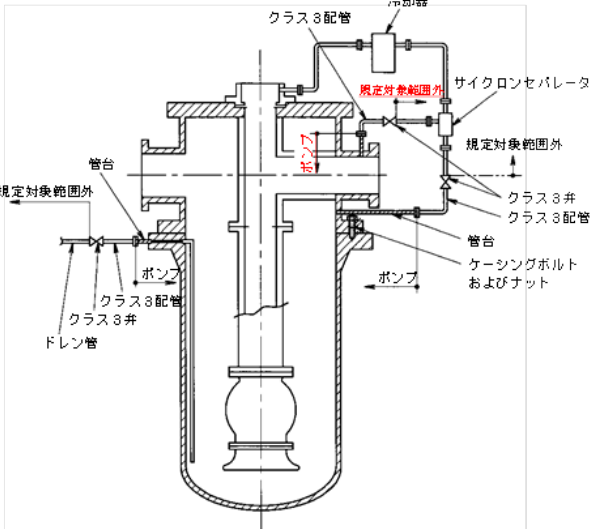
No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
3	I-5-28	PPB-3536 (5)	供用状態 A および B における <u>PVB-3315</u> (1)から(3)に定める応力を繰返しピーク応力強さとし、・・・	供用状態 A および B における <u>PVB-3315.1</u> (1)から(3)に定める応力を繰返しピーク応力強さとし、・・・	2009 追補版 以降
4	I-5-28	PPB-3536 (5)	・・・、添付 4-2 3.1 <u>および</u> 3.2 においてこれに対応する許容繰返し回数が実際の繰返し回数以上であること。	・・・、添付 4-2 3.1 <u>または</u> 3.2 においてこれに対応する許容繰返し回数が実際の繰返し回数以上であること。	2007 追補版 以降
5	I-5-104	☒ PPC-4010-4 (6/6)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)までについては、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)までについては、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	
6	I-5-117	PPD-3414 (1) a.	ただし、JIS B 2220 (2012) 「鋼製管フランジ」については、 <u>PPC-4010</u> の溶接部の設計を満足するものに限る。	ただし、JIS B 2220 (2012) 「鋼製管フランジ」については、 <u>PPD-4010</u> の溶接部の設計を満足するものに限る。	2010 追補版 以降
7	I-5-150	☒ PPD-4010-4 (9/9)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)については、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)については、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	2010 追補版 以降
8	I-5-175	☒ PPH-4010-4 (9/9)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)については、 t 、 t_n または $\underline{t_w}$ のうち小さいもの。(以下省略)	[備考] 1. t_{min} : (17)から(24)まで、(31)から(35)については、 t 、 t_n または $\underline{t_e}$ のうち小さいもの。(以下省略)	2010 追補版 以降

No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
第 6 章 ポンプ					
1	I-6-46	PMD-3330 (9)	軸垂直割り軸対称ケーシングをもつ多段ポンプにおいて、図 PMD-3330-3(b)にしめすケーシングボルト穴と吐出ノズル内面との距離 X は、式 <u>PMC-3</u> により計算した値またはボルト呼び径の 50%のうちいずれか大きい値以上であること。	軸垂直割り軸対称ケーシングをもつ多段ポンプにおいて、図 PMD-3330-3(b)にしめすケーシングボルト穴と吐出ノズル内面との距離 X は、式 <u>PMD-3</u> により計算した値またはボルト呼び径の 50%のうちいずれか大きい値以上であること。	2005 年版以 降
第 7 章 弁					
1	I-7-16	VVB-3370(2)	式 VVB-15 により計算した値が、260℃の温度における材料規格 Part 3 第 1 章 表 1 に定める Sm 値の 3 倍以上の場合、応力は、 <u>PVB-3315</u> (2)または(3)により計算した値とする。	式 VVB-15 により計算した値が、260℃の温度における材料規格 Part 3 第 1 章 表 1 に定める Sm 値の 3 倍以上の場合、応力は、 <u>PVB-3315.1</u> (2)または(3)により計算した値とする。	2009 追補版 以降

～ 規格解説 ～

No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
第6章 ポンプ					
1	I-解説 6-3	解説図 PMB-1110-3			(ボルトのハッチングの追加)

No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
2	I-解説 6-9	解説図 PMB-3320-1	 <p data-bbox="904 722 1167 802">図において、tは計算上必要な厚さ、rは必要最小丸み半径を示す。</p>	 <p data-bbox="1534 722 1796 802">図において、tは計算上必要な厚さ、rは必要最小丸み半径を示す。</p>	(t の矢印の位置の修正)

No.	ページ番号	規格番号	誤	正	備考
3	I-解説 6-24	解説図 PMD-1110-5			<p>（“ポンプ”，“規定対象範囲外”の追加）</p>
第7章 弁					
1	I-解説 7-6	解説図 VVB-3010-1	(Ke は PVB-3315 の(2), (3)により計算した値)	(Ke は PVB-3315.1 の(2), (3)により計算した値)	2009 追補版以降